

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 10 回 印刷物から電子辞書、オンライン辞書へ

昭和 30 年（1955 年）、見出し語 20 万語を超える中型国語辞典として出版された『広辞苑』（岩波書店）は、印刷が間に合わないほどのベストセラーとなり、後発の中型辞典が出版されるまでの 30 数年間で、もっとも語彙が豊富で「規範となる」国語辞典の地位を確立した。初版では「ど-ぼく【土木】家屋・道路・堤防・橋梁・港湾・鉄道・上下水道・河川など、すべて木材・鉄材・土石などを使用する工事。――こうがく【土木工学】道路・河川・鉄道・橋梁・上下水道・灯台・飛行場・空港・都市計画などの施設に関する理論及び実際を研究する工学の一部門。」、第二版（昭和 44 年、1969 年）以降は「ど-ぼく【土木】土木工事・土木工学などの略。」と同義の表現が続き、「土木」そのものを説明していない。

昭和 62 年（1987 年）『広辞苑第三版 CD-ROM 版』以降、辞書の電子化が進む中、2000 年頃から、インターネットの急速な普及によってオンラインで参照できる有償・無償の辞書が台頭した。平成 21 年（2009 年）新用語解説サイト『コトバンク』（朝日新聞）が開設され、見出し語 22.5 万語の『デジタル大辞泉』（小学館）などの中型辞典も無償で利用できるようになった。その後、『大辞林』（三省堂）も追加され、2013 年からヤフー辞書としてもサービス提供されている。また、ボランティアによる世界規模辞書プロジェクト『ウィクショナリー』（ウィキメディア財団）では、「土木（どぼく）木材やコンクリート、鉄材、土砂などで、道路や堤防、橋などを建設すること。」となっている。（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.58 コンテンツ

巻頭言	休眠預金について考える	内藤 堅一	2
コラム	都市交通体系の SDGs 的評価（シドニーと京都の例）	有岡 正樹	3
土木と市民社会をつなぐ	第 2 回 防潮堤問題にみる土木と市民社会	世古 一穂	5
会員紹介	（特非）シビルサポートネットワーク：CSN シンクタンク事業		8
部門活動紹介	事業化推進部門	辻田 満	9
会員からの投稿 1	CAFEO-36（シンガポール大会）参加	出崎 太郎	10
会員からの投稿 2	『和らぎ』をテーマに「美し国づくり大賞」を募集	山岡 和彦	12
事務局通信			13